



横浜市立太尾小学校

# 学校だより

令和2年度10月号

令和2年9月30日発行

< 豊かに学び ともに未来をひらく 太尾の子 >

①



②



③



④



⑤



## 多様な学びの姿から

校長 館 雅之

上の写真は私が見つけた今月の子どもが学んでいる姿です。

①は伝統的な一斉指導のスタイルです。見慣れた風景であるために学校での学びはこうであると考え方もいらっしゃるでしょう。

②は子どもがみんなの前で発表（音読）をしています。この写真には先生の姿は写っていません。

③は算数の習熟の場面ですが自然に席を立ち友達に教えている子どもがいます。「あーわかんない。」と声を発した子どもの所に友達が自然に行く姿も見られました。わからないことを自然に言葉にできること、それに対しての友達の応答があることがこの場の学びを支えています。先生は伴走者のような存在です。

④はグループ活動をしています。自然に前のめりになる姿が見られました。

⑤は雨の日の中休みのことではありますが、新しくクラスに配られたトランプやUNOで遊んだり、生き物の世話をしたりしています。私には個の「〇〇がしたい」という思いから生じる学びの姿として見えました。

さて、コロナ禍で見えてきたことのひとつに、今までの当たり前を問うことがあると私は思っています。学びの姿も今まで以上に多様になってくるでしょう。授業中にそれぞれがそれぞれの課題をそれぞれの方法で取り組んでいる⑤のような学びの姿も見られるようになるでしょう。その時に、それぞれの子どもが好き勝手にやっていてよいのだろうかと表面的に語ることに留まるならば、当たりの域を超えることはできないと思います。

一方、私は何でもありでよいと言っているのではありません。上の5つの学びの姿に共通していることは何でしょうか。上述で何度も出てきた用語は「自然」です。その子らしい力まない自然な振る舞いやその子らしい姿が見られるのかが語る視点になると考えます。それはその場の子どもの言葉や姿勢、表情などから周りにいる人が感じ取るしかないのです。そのため、多くを見ること、受容することが重要になってくると考えています。

個人面談が続いています。ご協力ありがとうございます。面談では担任の話などからもお子さんの新たな姿が見えたことと思います。多様な学びを支えるのは、周りの大人がその子に対する多様な見方をして、受容し、その子にとって今必要な関わりをすることだと考えています。これらの教育について一緒に語っていきませんか。ぜひご感想等いただければ幸いです。